

講義科目	: 社会科学演習	単位数	: 4
担当	: 川上 哲	学習形態	: 必修科目
		* 第2学年で履修	

講義の内容・方法および到達目標

この演習では、政治学や行政学の立場から日本の政治や行政の諸問題を扱っていく。前期は自らの問題関心を深めてもらうため、日本の政治や行政に関わる文献輪読を通じた討論を行う。後期はより掘り下げた論点に関する討論を行い、卒業研究を仕上げることを目標とする。

この演習には日本の政治や行政に関心がある学生の受講を求める。一人複数回は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。

授業計画

- 第1回 ガイダンス①本演習の説明と自己紹介
- 第2回 ガイダンス②文献や資料の探し方について
- 第3回 『日本の地方政府』 「第1章 首長と議会—地方政治の構造」の輪読
- 第4回 『日本の地方政府』 「第2章 行政と住民—変貌し続ける公共サービス」の輪読
- 第5回 『日本の地方政府』 「第3章 地域社会と経済—流動的な住民の共通利益」の輪読
- 第6回 『日本の地方政府』 「第4章 地方政府間の関係—進む集約化、緊密な連携」の輪読
- 第7回 『日本の地方政府』 「第5章 中央政府との関係—国家との新たな接続とは」の輪読
- 第8回 『日本の地方政府』 全体の論点整理と討論
- 第9回 『自民党』 「第1章 派閥—弱体化する「党中党」」の輪読
- 第10回 『自民党』 「第2章 総裁選挙とポスト配分—総裁権力の増大」の輪読
- 第11回 『自民党』 「第3章 政策決定プロセス—事前審査制と官邸主導」の輪読
- 第12回 『自民党』 「第4章 国政選挙—伏在する二重構造」の輪読
- 第13回 『自民党』 「第5章 友好団体—減少する票とカネ」の輪読
- 第14回 『自民党』 「第6章 地方組織と個人後援会—強さの源泉の行方」の輪読
- 第15回 『自民党』 全体の論点整理と討論
- 第16回 個別研究—行政学の理論に関する研究・論点整理と討論
- 第17回 個別研究—議員内閣制に関する研究・論点整理と討論
- 第18回 個別研究—内閣官房に関する研究・論点整理と討論
- 第19回 個別研究—内閣法制局に関する研究・論点整理と討論
- 第20回 個別研究—中央省庁に関する研究・論点整理と討論
- 第21回 個別研究—官僚の採用・昇任に関する研究・論点整理と討論
- 第22回 個別研究—官僚の退任・天下りに関する研究・論点整理と討論
- 第23回 個別研究—二元代表制に関する研究・論点整理と討論
- 第24回 個別研究—中央地方関係論に関する研究・論点整理と討論
- 第25回 卒業研究の中間報告①—卒業研究の内容についての個別報告
- 第26回 卒業研究の中間報告②—文献・資料の収集状況についての個別報告
- 第27回 卒業研究の中間報告③—卒業研究の構成についての個別報告
- 第28回 卒業研究についての個別指導
- 第29回 卒業研究—研究内容の個別報告
- 第30回 卒業研究—質問と討議

教材・テキスト・参考文献等

前期は以下の2つの文献を読んでいくので購入すること。

- 中北浩爾『自民党-「一強」の実像』（中公新書、2019年）
- 曾我謙悟『日本の地方政府-1700自治体の実態と課題』（中公新書、2019年）

成績評価方法

評価は出席時の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価する。本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。

その他

行政学あるいは地方政治論を履修済みであることが望ましい。未履修者は本年度に行政学あるいは地方政治論を履修することを求めたい。